

転落予防マップ

お子さまの発達は何れにあてはまりますか。
転落の危険要因を知って、安全な入院生活を過ごしましょう。



	背景	ヒヤリ!とする危険要因	防止策
子どもの発達	<p>(1歳未満)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ずり動きをする ● 寝返りする ● お座りする ● 這いずって移動する ● つかまり立ちする ● 一人歩きする 	<p>子どもの行動</p> <ul style="list-style-type: none"> ベッド柵を上げずに離れた瞬間に、子どもが寝返り、ヒヤリ! 子どもがベッド柵より身を乗り出し、ヒヤリ! 子どもがベッド柵を乗り越えようとして、ヒヤリ! 子どもがベッドから降りようと、ベッド柵を自分で下ろそうとして、ヒヤリ! 	<p>防止策</p> <ul style="list-style-type: none"> 【ベッド柵は上段まで上げてください】 保護者の方が ✓ 後ろのモノを取る時 ✓ ベッドの側を離れる時 ✓ 夜間入眠中の時 ✓ 帰られる時 など 【子ども一人でベッド柵を下ろさないで下さい】 ✓ トイレに行きたい時 ✓ プレイルームに行きたい時 ✓ 看護師のいるところに行きたい時 など 【年齢の大きな子どもは看護師と相談です】 看護師が ✓ 夜間睡眠中はベッド柵を上げます
	<p>(幼児)(学童以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 一人歩きする ● 多動である ● 落ち着きがない ● 手足に麻痺がある ● 目が見えにくい ● 耳が聞こえにくい ● 言語での意思の疎通が十分できない ● 薬剤を使用している (鎮痛・解熱剤) (向精神薬・睡眠剤その他) 		
<p>子どもの予測できない行動の結果、治療が増えることは避けたいです。 ベッド上での点滴やモニターのコードに足が絡んだり、薬剤の影響でふらつきたりする場合があります。 大人の見守りができない場合は、必ずベッド柵は上段まで上げるようにお願いします。</p>			
環境・その他	<p>保護者の行動</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自宅でフトンを使用している ● 持参したモノが大きい (おもちゃ、クッションなど) ● バギー・車いすを使用する ● 初めての入院 ● 以前入院時に、転倒・転落をすることがあった 	<p>保護者の行動</p> <ul style="list-style-type: none"> ベッド柵の使い方がわからない。上げ忘れて、子どもが寝がえり、ヒヤリ! ベッド内に大きなおもちゃ。子どもが踏み台にして、ベッド柵より身を乗り出し、ヒヤリ! バギー・車いすのベルトをしめ忘れた。子どもが身を乗り出し、ヒヤリ! 同室ベッドで子どもを寝かしつけ。子どもが寝がえり、ヒヤリ! 同室ベッドで子どもが遊んで、足を踏み外して、ヒヤリ! 	<p>防止策</p> <ul style="list-style-type: none"> 【ベッド上の過ごし方について】 ✓ ベッド柵については看護師が説明します ✓ 安静度は医師の指示が必要です ✓ 病棟内の歩行も医師と相談です 【ベッド内の整理整頓をお願いします】 ✓ 足の踏み台になって危険 ✓ ベッド内から取り除く ✓ つまづかないように注意 【バギー・車いすのバックルを装着する】 ✓ 移動時 ✓ 保護者が詰所に連れて来られる時 【同室ベッドでは遊ばないで下さい】 ✓ 同室ベッドには柵がありません ✓ 子どもが上ると危険
	<p>入院生活での転落は、保護者の方と過ごしている時に多く起こっています。 子ども、保護者の方も入院や慣れない環境に、緊張や不安があると思われます。 手術・検査の延期の可能性がでけますので、ベッド柵や同室ベッドからの転落は、予防していきましょう。</p>		